



## 2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年11月10日

上場会社名 アマテイ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 5952 URL <http://www.amatei.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 亮  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 川上 剛司 (TEL) 06-6411-1238  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	2,457	11.9	△6	—	△12	—	△38	—
2021年3月期第2四半期	2,195	△16.0	7	△59.6	△0	—	△11	—

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 △37百万円(—%) 2021年3月期第2四半期 △7百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	△3.31	—
2021年3月期第2四半期	△0.95	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	5,411	1,141	21.1
2021年3月期	5,305	1,206	21.8

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 1,141百万円 2021年3月期 1,158百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	—	—	0.50	0.50
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	0.50	0.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,400	22.7	42	32.6	25	39.1	10	134.6	0.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期2Q	12,317,000株	2021年3月期	12,317,000株
2022年3月期2Q	549,004株	2021年3月期	549,004株
2022年3月期2Q	11,767,996株	2021年3月期2Q	11,767,996株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	11
(1) 生産、受注及び販売の状況	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、昨年来続く新型コロナウイルス感染症が拡大する中、緊急事態宣言が発出・延長され、制約が多い中での経済活動を余儀なくされました。しかしながら、ワクチン接種が着実に進んでおり、徐々に国内経済は活性化していくことが期待されており、景気の先行きも明るいものになりつつあります。

このような事業環境の下、当社グループの主たる事業である建設・梱包向のうち建設向は第1四半期における新設住宅着工戸数は22.1万戸（前年同期比8.1%増）となり、また、第2四半期累計期間では44.5万戸（前年同期比7.6%増）と本格的な回復に一步ずつ近づいています。新型コロナウイルス感染症の第5波の収束を見据えた持家・貸家を中心とした住宅取得が鮮明になりつつあります。

一方、電気・輸送機器向ねじは、連結子会社である株式会社ナテックの当第2四半期において、自動車メーカーでの半導体不足や部品の調達難の影響も受けましたが、概ね堅調に推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、2,457百万円（前年同四半期2,195百万円、11.9%増）、その内訳は建設・梱包向は147百万円増（8.8%増）、電気・輸送機器向は113百万円増（22.0%増）となりました。

売上総利益は、386百万円と前年同四半期に比べ4百万円（1.2%増）の増益となり、これは、建設・梱包向で継続して製造コストの削減に努めつつ、販売価格の改定を進めたことが主因として挙げられます。営業損益は、販売費及び一般管理費の低減に努めたものの、運賃の上昇等により6百万円の損失（前年同四半期7百万円の利益）となりました。経常損益は、一部雇用調整助成金の活用等にて収支対策を行いました、12百万円の損失（前年同四半期0百万円の損失）となりました。

また、親会社株主に帰属する四半期純損益は、法人税等21百万円を差し引き、38百万円の損失（前年同四半期11百万円の損失）となりました。

当四半期連結累計期間におけるセグメントの業績は、次のとおりであります。

#### (建設・梱包向)

建設・梱包向セグメントは、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中ではありますが、釘を多く使用する2×4等の木造住宅着工戸数は、前年同四半期に比べ、着実に回復傾向にあり、事業環境は改善されつつあります。

しかし、利益面は、材料価格や商品の輸入価格が大幅に急上昇し、販売価格の改定が適時に実施できず、売上数量増加に見合った利益の確保が難しい状況となりました。そのため、変動コストの低減、海外OEM品と国内生産品との販売比率変更等により材料価格の高騰を補うべく対処しましたが、十分効果を上げるまでには至りませんでした。

当セグメント売上高は、1,825百万円と前年同四半期に比べ147百万円増（8.8%増）となりましたが、販売費及び一般管理費の増加もあり、セグメント利益は前年同四半期に比べ30百万円減の43百万円となりました。

#### (電気・輸送機器向)

電気・輸送機器向セグメントは、連結子会社である株式会社ナテックの当第2四半期は、メインユーザーの自動車業界で、電気自動車やハイブリッド車関連のバッテリーやモーターなどにおいて、ライセンス品や特殊ボルトの需要が、第1四半期から引き続き堅調に推移しました。

また、利益面では、売上総利益の伸長により、前年同四半期比で増収増益となりました。この結果、当セグメントの売上高は、631百万円と前年同四半期に比べ113百万円増（22.0%増）となり、セグメント利益は前年同四半期に比べ23百万円増の46百万円となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ・資産、負債及び純資産の状況

##### (資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、5,411百万円（前連結会計年度末〔以下「前年度末」という〕比105百万円増）となりました。流動資産は、前年度末に比べ175百万円増加し、3,377百万円となりました。これは、受取手形及び売掛金が100百万円、商品及び製品が99百万円増加し、その他が34百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は、前年度末に比べ70百万円減少し、2,033百万円となりました。これは主に有形・無形固定資産の減価償却費が83百万円であったこと等によるものであります。

## (負債)

負債合計は、前年度末に比べ170百万円増加し、4,269百万円となりました。流動負債は、前年度末に比べ275百万円増加し、2,955百万円となりました。これは支払手形及び買掛金が前年度末比222百万円増加、短期借入金と同500百万円増加、その他が66百万円減少したこと等によるものであります。また固定負債は、前年度末に比べ105百万円減少し、1,313百万円となりました。これは、長期借入金が前年度末に比べ70百万円減少、役員退職慰労引当金が26百万円減少したこと等によるものであります。

有利子負債（短期借入金、長期借入金）は前年度末に比べ65百万円減少し、2,832百万円となりました。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前年度末に比べ64百万円減少し、1,141百万円となりました。

これは、当第2四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純損失が38百万円、剰余金配当が5百万円であり、連結子会社である株式会社ナテックの株式を追加取得し完全子会社にしたことに伴い、前年度末の非支配株主持分47百万円がゼロとなり、一方、資本剰余金が30百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は、前年度末の21.8%から21.1%に低下し、1株当たり純資産は98.42円から96.99円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期通期の業績は、建設・梱包向（個別）における売上高は、更なる販売拡大と販売価格の値上げに努め、増収となる見込みであります。利益面では、鋼材の価格上昇の影響、また、海外商品の大幅な価格上昇が収益を圧迫し続けているため、今後も製造コストの低減、固定費を始めとする経費の新たな削減活動に着手していく方針ではありますが、営業利益・経常利益・当期純利益は減益となる見込みであります。

一方、電気・輸送機器向においては、自動車メーカーが大幅な減産を発表しており、また、鋼材価格の値上げが本格化していくため、収益は圧迫されることも予想されますが、売上高は増収、営業利益・経常利益・当期純利益は増益となる見込みであります。

以上の結果、2022年3月期通期連結業績予想については、増収・減益となる見込みであります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	636,121	601,668
受取手形及び売掛金	1,172,993	1,273,411
電子記録債権	160,079	184,943
商品及び製品	717,348	816,998
仕掛品	230,748	256,053
原材料及び貯蔵品	236,579	233,086
前払費用	12,280	10,232
その他	35,642	753
流動資産合計	3,201,792	3,377,150
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	653,239	628,866
機械装置及び運搬具（純額）	502,753	476,803
土地	733,542	733,542
その他（純額）	39,446	36,481
有形固定資産合計	1,928,981	1,875,694
無形固定資産		
ソフトウェア	25,866	17,810
その他	0	0
無形固定資産合計	25,866	17,810
投資その他の資産		
投資有価証券	38,798	35,549
長期前払費用	4,101	2,734
繰延税金資産	7,645	5,218
その他	110,444	108,764
貸倒引当金	△11,856	△11,826
投資その他の資産合計	149,134	140,441
固定資産合計	2,103,982	2,033,945
資産合計	5,305,774	5,411,095

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	537,413	759,818
電子記録債務	203,722	253,135
短期借入金	1,717,435	1,722,893
未払法人税等	7,750	29,338
未払消費税等	—	24,313
未払費用	44,257	62,794
賞与引当金	22,345	23,004
その他	146,969	80,570
流動負債合計	2,679,893	2,955,869
固定負債		
長期借入金	1,179,707	1,109,110
繰延税金負債	6,791	—
役員退職慰労引当金	43,320	17,147
退職給付に係る負債	186,402	184,005
資産除去債務	3,553	3,561
固定負債合計	1,419,773	1,313,824
負債合計	4,099,666	4,269,693
純資産の部		
株主資本		
資本金	615,216	615,216
資本剰余金	40,181	70,407
利益剰余金	537,109	492,285
自己株式	△49,068	△49,068
株主資本合計	1,143,439	1,128,840
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,816	12,561
その他の包括利益累計額合計	14,816	12,561
非支配株主持分	47,853	—
純資産合計	1,206,108	1,141,402
負債純資産合計	5,305,774	5,411,095

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	2,195,641	2,457,030
売上原価	1,814,215	2,070,946
売上総利益	381,425	386,084
販売費及び一般管理費	373,835	392,368
営業利益又は営業損失(△)	7,590	△6,284
営業外収益		
受取利息	4	3
受取配当金	690	515
雇用調整助成金	31,872	8,865
その他	5,200	1,667
営業外収益合計	37,766	11,051
営業外費用		
支払利息	8,541	7,752
休業手当	29,291	7,180
その他	8,325	2,614
営業外費用合計	46,158	17,546
経常損失(△)	△801	△12,779
特別損失		
固定資産除却損	384	80
特別損失合計	384	80
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,185	△12,859
法人税、住民税及び事業税	6,400	25,298
法人税等調整額	1,466	△3,370
法人税等合計	7,866	21,928
四半期純損失(△)	△9,052	△34,787
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,104	4,152
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△11,157	△38,940



四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失(△)	△9,052	△34,787
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,292	△2,254
その他の包括利益合計	1,292	△2,254
四半期包括利益	△7,760	△37,042
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△9,865	△41,195
非支配株主に係る四半期包括利益	2,104	4,152

### (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年6月30日付で、連結子会社である株式会社ナテックの株式を追加取得いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本剰余金が30,225千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金が70,407千円となっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、従来通り出荷時に収益認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高及び営業損失に与える影響は軽微であり、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高への影響もありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の決算短信の(追加情報)に記載しました新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	合計
	建設・梱包向	電気・ 輸送機器向	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,677,736	517,905	2,195,641	—	2,195,641
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	3,068	3,068	△3,068	—
計	1,677,736	520,974	2,198,710	△3,068	2,195,641
セグメント利益	74,237	23,799	98,037	△90,447	7,590

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	98,037
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△90,447
四半期連結損益計算書の営業利益	7,590

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	合計
	建設・梱包向	電気・ 輸送機器向	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,825,401	631,629	2,457,030	—	2,457,030
セグメント間の内部売上高 又は振替高	75	3,961	4,036	△4,036	—
計	1,825,476	635,590	2,461,067	△4,036	2,457,030
セグメント利益又は損失(△)	43,760	46,870	90,630	△96,914	△6,284

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	90,630
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△96,914
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△6,284

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 補足情報

## (1) 生産、受注及び販売の状況

## ① 生産実績及び仕入実績

当第2四半期連結累計期間における生産高及び仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高及び仕入実績(千円)	前年同期比(%)
建設・梱包向	1,679,953	+4.9
電気・輸送機器向	492,573	+11.2
合計	2,172,527	+6.3

(注) 1 金額は、生産高は製造原価、仕入実績は仕入価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去して  
います。

2 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

## ② 受注実績

当第2四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
建設・梱包向	1,833,199	+16.1	297,453	+3.6
電気・輸送機器向	617,908	+35.9	127,421	+204.2
合計	2,451,107	+20.6	424,874	+29.1

(注) 1 金額は、販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去して  
います。

2 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

## ③ 販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメント	販売高(千円)	前年同期比(%)
建設・梱包向	1,825,401	+8.8
電気・輸送機器向	631,629	+22.0
合計	2,457,030	+11.9

(注) 1 金額は、販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去して  
います。

2 当第2四半期連結累計期間における主な相手先別の販売実績および当該販売実績に対する割合は次のとおり  
あります。

相手先	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
大東スチール株式会社	421,930	19.2	449,445	18.3

3 上記の金額には、消費税等は含まれていません。